



21日間 全世界と共にする

# ダニエル祈禱会

11.1<sup>THU</sup> - 21<sup>WED</sup> PM 8:00-10:00

WORSHIP 聖霊の臨在を力強く感じられる礼拝

RESTORATION 完全なる癒しと変化がある回復

UNITY 教団と教派を超えた団結

## 講師

01  キム・ウンホ 牧師	02  イ・ハンヨン 教授	03  ホン・ソンウォン 牧師	04  スザンナ・ゲスケ 宣教師	05  ジュ・ミョンシク 牧師	06  キム・テファン 宣教師	07  ポール・マハナ ンディア 牧師
08  ユ・ジンソ 牧師	09  エステル・クオン 宣教師	10  イ・ジウン 牧師	11  シヨーン 執事	12  パク・ハンナ 牧師	13  チェ・ボクキ 代表	14  ブライアン・パーク 牧師
15  イ・ユナム 勸士	16  パク・テグ 勸士	17  アン・ジェウ 所長	18  ク・ギヨンソン 作家	19  ヘレン・キム 宣教師	20  キム・ミョンソン 幹事	21  証しの夜

# 祈りの現場で勝利しなさい

(出エジプト記 17章8~16節)

キム・ウンホ牧師



アマレクの正体は信仰の行進を妨害する悪の勢力

イスラエル民族がエジプトの地を出発しカナンの地へ向かう途中で最初に攻撃した敵がアマレクです。アマレクは荒野を進む途中で疲れ果てた弱い民を攻撃する信仰の行進を妨害する者たちでした。救いを受けた神の民が天の御声に従う道を妨害し対抗するアマレクは悪の勢力の象徴です。教会の完全でない部分を見せることで教会から足を遠ざけさせ、経済的な困難や人間関係が原因の心の痛み、失業、この世の快楽や誘惑、病、愛する人との別れなどを用いて私たちを攻撃します。サタンの餌食は取り残された人です。信仰の行進からは取り残されたり脱落してはならないのです。

勝利の戦略は戦いと祈り

モーセはアマレクの攻撃を受けたとき最初にヨシュアに人々を与えアマレクと戦うように言い、自身は神の杖を手にして山の頂に立ちます。モーセが立てた戦略は戦いと祈りの戦略です。人はすべきことを行い神の助けを求めなければなりません。イエス様がラザロを生き返らせたとき人々に石を動かしておくように言い、感謝の祈りを捧げた後「ラザロよ、出て来なさい」と命じられました。ルカの福音書5章にはシモンに「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい」と言われました。シモンはみことばに従い網をおろし、イエス様はゲネサレ湖の魚たちをその時その場所に集められました。迷信は人の責任を問いませんが、キリスト教は人の責任を問います。私たちは祈りながら、最善を尽くして与えられた役割を果たさなければなりません。

忠誠を尽くす人と祈りの山

モーセはなぜヨシュアをアマレクとの戦場に送ったのでしょうか？ヨシュアが忠誠心のある人だったからです。彼らは一度も戦争をしたことがなく、戦争に勝利するだけの戦略と戦術もありませんでした。しかし神に従い、出て行き戦ったのです。忠誠心のある人だからです。主を信頼しているので忠誠を尽くすのです。忠誠心のある人が霊的戦いの先頭に立ちます。モーセはヨシュアが戦っている間アロンとホルを連れて祈りの山に登ります。イスラエルとアマレクが戦う現場を見ながら祈るためです。祈りの山に登れば遠くにはっきりと見渡すことができるからです。霊的な視野が広くなります。私たちが祈りの山に登らなければなりません。それは祈りの深い境地に入っていくことなのです。神の臨在の中で祈り、聖霊のお導きを受けて祈ることなのです。

神の杖はイエスの御名と血潮

モーセはなぜ神の杖を手にもったのでしょうか？神の杖は力の杖です。神の杖は蛇にもなり、紅海を割り、岩を打つと水が出ました。新しい契約を受けた私たちの手にある神の杖はイエスの御名と血潮です。私たちがこのふたつを手に進まなければなりません。手に神の杖、つまりイエスの御名と血潮の力を携えて進まなければならないのです。

神に降伏という信仰の告白をするときに勝利する

モーセが手を上げるとイスラエルが勝ち、手を下ろすとアマレクが勝ちました。祈りによって戦争の勝敗が左右されました。モーセが手を上げ祈るとき、神が戦争に介入して来られました。モーセはこの戦争で勝利した後、最初に祭壇を築き「アドナイ・ニシ」と言いました。「主はわが旗」という意味です。旗は勝利を意味します。皆さんの人生において勝利を与えてくださる方は神です。私たちが恵みの御座の前に出て行き祈ることは神の御座の前で手を上げ、神に降伏するという信仰の告白が含まれています。祈りとは自分の切なる願いと野望を成し遂げることではありません。自分自身が神に降伏することなのです。

# 川の水に投げられたパン

(伝道者の書11:1-3)

イ・ハンヨン教授



あなたのパンを水の上と隣人に投げよ

1節の「パン」はヘブライ語で主食のパンを意味し、それはすなわち「生命」もしくは最も尊いものと「人生のすべての方式」を意味します。「水」は流れて行く川の水です。すなわち「あなたが最も尊く思うパンを流れ行く川の水に捨てなさい」という意味です。伝道者の書にある最初の10章は「人は一生自分の心にパンを満たそうとする」という内容です。人は心に従って生きるようになっており、その心がパンになるのです。快樂、お金、子どもたち…著者はその心を投げ捨ててしまいなさい、そうすればそのパンを再び見つけることになると言います。「いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです」(マタイ16:25)。2節の「七人か八人」は私が出会う無限の人々という意味です。私以外のすべての人(配偶者、子ども、隣人など)は川の水と同じです。彼らに私のパンを投げることは容易いことではありません。しかしイエス様は「わたしがいのちのパン」(ヨハネ6:35)と言われました。川の水に浮いて流れて行く私たちにイエス様は十字架からパンを与えてくださいました。

神はパンを投げた者をご覧になる

神は私がどれだけ投げたか計算されます。聖書にはパンを投げた者が描写されています。「人に知られないようでも、よく知られ、死にそうでも、見よ、生きており、罰せられているようであっても、殺されず、悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています」(2コリント6:9-10)。その反面、パンがいっぱいに満ちた人は「あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もないと言って、実は自分がみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない」(黙示録3:17)人なのです。

「木が南風や北風で倒されると、その木は倒れた場所にそのままにある」(伝道者11:3)のように木は一方方向に倒れると自らが反対側に再び倒れることはできません。人は木のようです。それにもかかわらず私たちは「反対側に倒れたならば」すなわち「お金持ちだったら」もしくは「状況がこれよりも良かったならば」川の水にパンをひとつくらいは捨てることができると考えます。しかしあれこれと風勢を見ながら状況のせいにする人は決してパンを投げることはできません。

自分の痛みによって隣人の痛みを仕えることができる

私には姉が3人います。その中で最も仲良かった三番目の姉は結婚後長い間妊娠することができず祈りによって子供を授かったのですが、妊娠後期に手の施しようがない状況になって初めて癌が発見されたのです。結局はホスピスへ移送され、全身麻酔をして3日後に葬式をあげることになりました。そして運命の日、麻酔をしようとしたのですが、姉が突然目を開き「お腹が空いた」と言うのです。その後、姉は27年間を生きました。しかしトイレにもひとりで行けない体で大きな痛みを耐え続けなければなりません。それでも毎週教会のトイレを掃除し、自分よりもさらに傷を負った人々に仕えました。その姉の傍で「愛する人をここに与えてくださり感謝します」と告白する義兄が姉の面倒を見ていました。

信仰は自分自身を否定し仕えることだ

全知全能のイエス様が苦難の姿で来られたのは私たちの苦難に参加され共感するためでした。苦難を解決する方法は聖書に書かれているではありませんか。しかし苦難を通して私たちは他人の苦しみに共感し、愛が生まれ、主の苦難に参加することができるのです。そして結局すべての苦難が協力し善をもたらす恵みを体験するようになるのです。聖書には「成功」という単語がない反面、「仕える」という単語とここから派生した単語は1200回以上言及されています。イエス様は「仕えられるためではなく、かえって仕えるため」(マタイ20:28)であると言われました。私のパンを果敢に投げて、苦難の中でも心を尽くしてイエス様に仕え、隣人を愛することがイエス様が私たちにお見せになった生き方なのです。

要約：グレイスジャーナル ペ・ユジン記者

# 鏡にぼんやり映るもの

(第一コリント13:12)

ホン・ソンウォン牧師



ヨハネの福音書9章の生まれつきの盲人を見て（1節）イエス様に弟子たちは質問をします。「彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」（2節）この2節は私がウォンギの父親として生きて来ながら悩み苦しんできたことでした。息子が5才の時に先天性早老症の診断を受けたとき、「主よ、なぜこのようにされたのですか？」「なぜ神様は私の息子にこのような罰を下されたのですか？誰の罪のせいですか？」と繰り返し尋ねるだけで、すでに二千年前に「神のわざがこの人に現われるためです」（ヨハネ9:3）と言われたイエス様のみことばは心に響いていませんでした。過去8年間を振り返ってみて初めて、「ああ、神のわざが現われていたんだなあ！」と知ったのです。

## 時間の意味

私たちは「すぐに」何かを知ろうとしますが、その時間は神だけが知るものであり、神との接続ラインであるその時間とはその人だけが知るのです。その時間を待たなければなりません。ウォンギの病名を知ってからは納得が行かず不満ばかりを思っていました。『今日が最後だとしたら何をすべきか？』と最善を尽くしながらウォンギと時間を共に過ごしたところ、この病気が神からの罰や審判ではなく、ウォンギがとても愛らしく思えたのです。その瞬間瞬間を私ができることに最善を尽くしたところ、感謝すべきことを発見できるようになりました。2014年 ボストンにある小児早老症財団でウォンギの脳MRIを撮ったとき、何も携帯できないままでウォンギを機械の中へと送ったのですが、まるで死の世界に送るように思えました。「別れの時が来たら、何を最も後悔するだろうか？ウォンギの時間がいつまでかは分からないけれども、ウォンギが幸せに生きることができるようになってあげなくては。それが本当の愛なんだ！時間の主人は神なんだ！」

## 関係の意味

最も辛いとき「悔い改めよ」という人々の言葉に私と妻は絶え間なく悔い改めました。良い面もありますが、とても辛くもありました。信仰のある人は苦難の中にいる人に気を付けて近づく必要があります。自分の経験と価値観を他の人も同じように持つて生きることは違います。春川で牧会に携わっていたとき教区のご年配の方が私の手を取り「伝道師先生、私が祈っていますから、元気を出してください。ウォンギも健康になりますから」と言ってくださった慰めの一言が同じ信仰を持つ者として私を生かしてくれました。苦難の中で共にいて、慰めてくれる人がいてくださったので私たち家族も生きて行くことができました。ボストンの病院宿舎でウォンギのクラスの友人たちの手紙を読みながら感動しました。ウォンギを健康に生かしてくれるその力は共に信仰生活を送り神を賛美する先生と友人たちのお陰で可能であったと思ったのです。

## 父なる神の心

治療のひとつとして私の脂肪幹細胞をウォンギに与えたとき私はお腹に力を入れることができませんでした。私が「喉が渴いた」と言って、ウォンギがすぐに水を持ってきてくれるときは父として喜びを感じましたが、拒否される時には「おまえみたいな息子のために血と肉をあげたのか」と言う言葉がでました。しかし、どこか聞き馴染みのある内容のような気がしました。それが主の心でしょう。辛く疲れ果てているとき、主は私の心の中で「お前がウォンギの父親でしょう。ウォンギがあなたの息子でしょう」と言われます。すると私は「はい、主よ。私が何か大きなことをして主に栄光を帰すことはできなくても、私に預けてくださったこの息子は最善を尽くして面倒を見ます」と告白するのです。

## 使命を知り愛の世界を広げる

なぜ私が牧師で信仰を持つ人なのか、以前はそれについて答えを得ることはできませんでしたが、ウォンギを面倒見ながら少しずつその使命について分かって来ました。使命とは私だけが感じるができるもので、私だけができることを主が与えてくださることです。ウォンギは米国の財団から受け取った薬を5日間だけ飲んで止めましたが、外国の他の小児早老症の家族たちが驚くほど健康です。私は「ウォンギだけを健康にしてくださいと感謝します」とは言いません。本文で使徒パウロが自身の人生の体験を含めて説明してくれています。このぼんやりとした世の中で主を信じる私たちがしなければならないことは信仰と希望と愛を持って生き、愛することなのです。ぼんやりとした世の中で私は私に与えられたウォンギと私の家族と全世界にいる123名の小児早老症の子どもたちを心を尽くして愛しながら生きようと思います。

# 患難の中でも力となってくださる神

(ローマ5:3-5)

スザンナ・ゲスケ宣教師



## マラティア殉教事件

2008年トルコ南東部マラティア市でドイツ人宣教師ティルマン・エケハルト・ゲスケ宣教師が運営するジルベ出版社（聖書印刷及び配布を行う文書伝道の働き）に怪しい男たちが侵入し、仕事をしていたゲスケ宣教師と二人のトルコ人牧師（ウル・ユクセル、ネジャティ・アイデュン）を縛り上げ、全身を刃物で切り裂き拷問し、喉を裂いて殺害しました。メッセージをされるスザンナ・ゲスケ宣教師はティルマン宣教師の妻です。

## 小さなことを通して訓練される主

夫の殉教以後もトルコに滞在することに対して私を強靱な人だと言いますが、私は神を信じ、トルコに行くことを決断したことで多くの困難に遭ったと考えていた弱い者でした。しかし主は小さなことを通して大きなことをやり遂げられるように私を訓練してくださいました。私たちは最初の定着地での試練を通して強くなりました。2003年、愛の心を抱き、働きの場所を東部地域（マラティア）に移ってから政府の逼迫がひどくなりました。マスコミが宣教師は悪い人々だとけなしても構いませんでした。それからしばらくして、家庭教会が立てられ、夫はムスリムの隣人たちとも仲良く過ごしていました。しかし現地人の同僚は福音伝道と聖書配布によってもたらされる多くの脅威の中に生きていました。

## 赦しの力を与えられた主

長い訓練の中でも夫の殉教はとてつもなく大きな試練でした。しかし娘が「お父さんは主のために亡くなって、私たちは教会を立てるためにここに来たのだから、これを全うしよう」と言ったのです。私たちはトルコに残り教会を立てました。トルコの放送局が私を訪ねて来たとき、人としてインタビューを受けたくありませんでした。しかし「今がまさしく福音を伝える瞬間だ」というある牧師の言葉を聞いて目が覚めました。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです」（ルカ23:34）のみことばに従い「イエス様がそうされたように、夫を殺した彼らを許します」と述べると主の平安が望みました（ヨハネ14:27）。主の赦しの恵みを与えられたので可能になったのです（コロサイ3:13）

しかし、ひとり取り残されたという現実には骨身にこたえました。私の嘆きの叫びを聞かれた主は常に助けの手を送ってくださいました。ある日、人々を避け逃げて来た台所で詩篇119篇を読み、私が神とみことばを悟ることを神がどれほど望まれているかを感じたのです。信仰の面で夫だけに頼っていた私が自らが勉強し悟ることは人生の重要なターニングポイントになりました。

## なぜ（Why?）ではなく 何のために（What for?）

ヨブを通して私自身を振り返ってみました。ヨブは病によって共同体から追い出されても神を否定することはありませんでした。ヨブの病が簡単に治らないように私の夫も戻っては来ませんが、神はヨブと同じような選択をすることができるように助けてくださいました。神はなぜサタンがヨブを苦しめることを許されたのでしょうか？どのような苦難にあっても決して神のもとを離れることはないという絶対的な信仰のためです。神が許された苦難の基礎には私たちが神を否定することはないという神の信仰が根底にあるのです。なぜ（Why?）ではなく、何のため（What for?）なのかについて尋ねてください。ヨブはサタンの敗北のための苦難を受けました。

そうすると私に起こった出来事が神のバズルの1ピースであると思えたのです。キリストに敵対していた人々が福音に関心を持ち、夫の願い通りに教会は成長しました。そのうえ、録画放送でキリスト教的な内容を削除していた放送局から生放送の依頼が来ました。そのようにして私のインタビューは神の道具として用いられました。

## 試練に負けないでください

問題への対応方法が問題解決の勝敗を決定づけます。何のためにこの出来事が起こったのかよく見てみてください。自ら強くなろうと苦しめないでください。試練に負けず赦すならば主からの平安によってさらに強くなることができます。弱さの中でこそ強い主が皆さんと共におられます。

私は主と共にいてくださるので今でもトルコに住んでいます。悪の勢力たちが怖くないのかと尋ねられます。怖くありません。むしろトルコで祝福の管になることを望んでいます。神はすべてのムスリム国家が主を知ること願っておられるからです。主は私たちすべてに新しい力を与えてくださり、すべての苦難に打ち勝たせてくださいます。その結果、信仰にあってひとつとなり、私たちはさらに強くなるのです。私たちをひとつの共同体として召してくださった主に感謝を捧げます。

# 母はシャーマン、息子は牧師

(エペソ人への手紙2:1-5)

ジユ・ミョンシク牧師



私の故郷は仁川ヨンユ島です。両親は漁業をしていたので、安全と豊穡を祈願して土着信仰を代々当たり前のようにして信じてきました。「そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました」(エペソ2:2)。

牧師になることを願う息子とシャーマンになった母

私は高校生の時に叔母について教会に通い始めました。大学の宣教団体に入り、イエス様に個人的に出会いました。イエス様が私のうちに入って来られ、心の中の汚れた罪が示され、涙を流しながら悔い改め、イエス様が十字架で血を流され死んでくださったことにより罪が贖われ、復活されて私を罪から解放してくださったことに心から感謝し、牧師になることを願ったのです。大学2年生で軍に入隊し部隊に配置された時、母がシャーマンになったという知らせを受けました。悪霊は神を信じる私が軍隊に行った隙を狙って働いたのです。私が休暇を取り帰宅すると門の前に“ヨンユ巫女”という立て札と紅白の旗が立てられていました。2階には神棚が作られていました。母は家族を生きかすため、そして神に選ばれ拒否することができない運命であったためシャーマンになったと涙を流し悪態をつきながら私にそう言いました。家の中に突然災いが生じ、空港建設の補償のために得た財産を使い果たしてしまい、兄弟間に争いが生じ、母の心の病は段々とひどくなっていきました。誰かに神が降りて来なければならず、それを拒否すると娘に神が降りてくるという言葉に母は泣きながら祈り、刃物の上を歩くシャーマンになったのです。黄海道の巫俗信仰儀式を行う母は無形文化財として推薦されそうにもなりました。私は母を恥ずかしく思い、母に無礼な態度で怒りや苛立ちをぶつけ文句を言っていました。その一方で、母は私が教会に行つて戻つて来ると怒り、聖書と賛美歌集を探し出しては燃やすという繰り返してました。

母のために祈り始めて起きた変化

その後、軍宗になり神の主権について悟り始め、シャーマンである母に対する見方が変わり、祈り始めました。母の魂を憐れんでくださり、母に福音とイエス様が必要であることを祈りを通して悟ったのです。しかし除隊後、留学を理由に神学を辞めるように父から言われていたのにもかかわらず、それに従わなかったので家から追い出されてしまいました。私が出て行った後、母は私の所持品をすべて燃やし、十字架を捨ててしまいました。母は私を悪い運命にとりつかれているので、七星神に拝まないと生きて行けないと言いましたが、占いはイエス様を信じ生まれ変わった者にとって何の意味もありませんでした。大学卒業後、再び家に戻ったところ、占いのために訪れるお客はほとんどいませんでした。神棚の前で生活をしていても霊的に苦しむことはありませんでした。私のうちに聖霊様がおられるためです。大学の卒業式に母を招待し礼拝を捧げた後には占いのために訪れる客がいなくなりました。どれほど熱心に祈っても母の祈りが答えられることはなく、生きておられる神への私の祈りは答えられたのです。周辺のシャーマンたちに相談したところ、息子に勝つことはできないので息子に従うように言われたそうです。決定的だったのは、町内にある教会の牧師が友人である牧師二人と共に訪れ、4時間にも渡る激しい霊的戦いの末、両親は教会に行くことを決心したのです。その後、シャーマンであった祖母と家族全員がイエス様を受け入れ、母は神棚を燃やしました。私は母にみことばを教え、「イエス・キリストは私の主」と5年間続けて告白させ、悪霊の跡形を一つ残らず消し去ったのです。

シャーマンたちを愛し祈って伝道する

私はシャーマンたちを訪ね祈って伝道しています。霊的に縛られているシャーマンたちを愛し福音を伝えたいです。福音的な視覚で見てイエス・キリストの愛によって彼らを受け入れ福音の中でシャーマンたちが変わることを願っています。

要約：ユン・サンミ執事（オリユン教会 河南教区）

# 割れた器

(マルコの福音書12:41-44)

キム・テフン宣教師



## 召しの上で出会った新しい道

私たち家族は神の召しにより2013年7月にエチオピアに移住しました。しかし、その1年3ヶ月後、私はパーキンソン病の診断を受けました。先が見えない状況の中で神は「雨が降るからと言って家に戻る必要はない」と語ってください新しき道を示してくださいました。私は元々肝移植を行う医師であり、韓国政府の支援によって保健福祉省の職員としてエチオピアに行きました。今年3月にそこを辞めようという思いが与えられ退職し、現在は自費宣教師兼エチオピアの保健省で無報酬のアドバイザーとして働いています。そこでは思うように仕事が進みません。神の召しに従ってそこにいますが、1週間の大部分を机の前で何もせずに過ごしていることもあります。ビザを取得するための手続きが間違っていたという理由で移民局に6回も足を運ばざるを得ず、恥ずかしい思いをしたこともあります。2000年前に来られたイエス様の心を感じました。

## 割れた器、わたしがあなたを選んだ理由

重要な役割を果たしたくてやって来たのに、まるで割れた器のように感じると告白すると、神は「あなたが割れているからこそ、わたしがあなたを用い選んだのだ」と言われました。私が「割れているなら使いようがないじゃないですか？」と訊くと、さらに驚くべき答えを与えてくださいました。「あなたが割れているから、私が十字架にかかり、あなたの罪のために鞭打たれ、あなたを完全にするために苦難を受けたのだ。」主は私の割れた心を受け取られました、そのまま受け取るのではなく、その苦難によって私たちを完全な者としてくださったお方です。「それでも私が主に捧げられるものはありません」と言うと、貧しいやもめのふたつのレプタ銅貨のみことばを通して恵みを与えてくださいました。「あなたはわたしに多くのものを与えなかったけれども、わたしはあなたの心を受け取った。」

## ただ主だけを語れ

私がアフリカに行こうと決心してすぐに7、8カ所の大学から教授として来て欲しいという連絡を受け、神が宣教を本当に喜んでおられると感じました。その神が呼んでくださった場所に立ってはいるけれども、実際には何もしていないのです。証しすることもないのに、このダニエル祈禱会に呼んでくださった神の摂理を私は理解できません。これは神のさらに驚くべき点です。話すことがない人を舞台に立たせる…神だけについて語りなさいという意味でしょう。ギデオンは強い勇士でしたが臆病でしたか？ギデオンが3万人を集めたときに拒否された神が精鋭部隊300人とならば共に働くことができると言われました。ギデオンの武器はつぼとたいまつだけでした。そのように戦争は神に属しており、私たちはやるべきことに従いその場にいるのです。皆さんの召しの場はどこですか？ホセア書と第一サムエルを見ると恐ろしい言葉が出てきます。「わたしは彼を退けている」（ホセア8:8、第一サムエル16:6-7）。主が用いられる器として残ることができるよう願います。

## 主の雲の柱が立ち昇る時を待つ

神は「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」と言われますが、私は父なる神にどこに行くべきなのか尋ねたトマスと同じ心境です。荒野と人生には道はありません。神の火の柱と雲の柱が導く道に従うことがイスラエルの民の人生でした（出エジプト記40:36-38）。皆さんはどの道を選択されますか？私は今でもどこに行くべきか分かっていませんが、主の雲の柱が立ち昇るのを待っているのです。皆さんは主の火の柱と雲の柱に従って進んでいますか？

## 溢れる神の恵みに感謝します

「あなたのいつくしみは、なんと大きいことでしょう。あなたはそれを、あなたを恐れる者のためにたくわえ、あなたに身を避ける者のために人の子の前で、それを備えられました」（詩篇31:19）。私が現在、特にしている仕事がなくとも主が私のために与えてくださった恵みが溢れているので感謝しています。体も不自由で大変な点もありますが、神に仕え従っていく上では足りないものはありません。神が願われる場所で神に従っていれば、水をくんだ手伝いの者たちだけが知る祝福を享受することができます。そのような祝福を私と皆さんが共に享受できることを願います。

要約：グレイスジャーナル ソン・ウジン記者

# 神様が喜ばれる祭司

(ヘブル人への手紙13:15-19)

ポール・マハナンディア牧師



## 死の勢力が存在した過去

過去にヒンズー教の祭司だった私は数千頭の動物を捕まえ、その血で悪霊に祭祀を捧げていました。また悪霊を母、姉、妻として仕え共に食事をしたりもしました。しかし、ある日ある悪霊に「お母さんがいちばん好きな血は何の血ですか？」と質問すると、突然悪霊が静かになりました。再び質問しました。「お話し頂けるとお捧げします。」と言ったその瞬間、悪霊がいなくなったので呪術で再びその霊を呼び出し尋ねました。「お母さん、教えてください。」そうすると悪霊が「私がいちばん好きなのは人間の血だ」と言いました。この言葉を聞くや否や足がぶるぶると震えました。それまで楽しみながら仕えていた悪霊が恐怖の対象となったのです。頭の中が「人間の血が必要ならば私を捧げるように言うのではないか…」などと恐ろしい考えでいっぱいになりました。

## 私に出会ってくださった義なる神

しかし義なる神は1989年11月15日、私に出会って下さいました。その後、私は呪術と魔術によって人々を騙し金を稼いでいた仕事を辞めました。12月7日に洗礼を受け祈り、12月11日に聖霊の賜物を受けました。その時、初めて聖書を読みながらヘブル書のみことばを通して賛美が祭祀であることを悟り、主の福音を伝えなければならないと思いました。その後、私が悪いことを行っていた人々に許しを請いました。山の奥地に住む原住民の子どもたちに教育を始めました。また呪術を行っていた村に福音を伝え18の村が主を受け入れました。このすべては私ではなく主がされたことでした。

## ひとつになることを通して行われる祭祀

「また、その全焼のいけにえの皮をはぎ、いけにえを部分に切り分けなさい」（レビ記1:7）祭祀ではなぜ最初にいけにえの皮をはがしたのでしょうか？その皮膚からその正体を知ることができるからです。皮をはがすとすべての人はひとつの色へと変化します。白色や黒色もありません。すべての人がひとつになるのです。そのとき神は私たちのうちにおられ、驚くべきわざを行なわれます。しかし、一色にまとまるのは容易いことではありません。例えば、牛が三頭いました。その三頭は常に共にいました。その後ろでは常に一頭の虎が三頭の牛を捕らえて食べようと見ているのですが、その三頭が常にひとつにまとまっているので近づくことができませんでした。ある日、虎が一頭の牛に「おまえだけに教えてあげるから、誰にも言うなよ」と言って逃げて行きました。他の二頭が虎が何と言ったのか尋ねたところ、その牛は「誰にも言うなって言ったんだ」と答えました。二頭が「それなら、僕たちにも教えてくれないのか？」と言って喧嘩を始めました。それ以降、三頭の牛がひとつにまとまることはありませんでした。まさにこのようにしてサタンは私たちの人生においていたずらをします。私はひとつになることを嫌うサタンと共に生きていたためとてもよく知っています。しかし、教会と家庭がひとつになれば神が臨まれサタンは逃げて行くのです。すなわち祭司がいけにえの皮をはがすとき、私たちのうちにあったすべての違いが消え去り、ひとつとなり神が共におられるようになるのです。

## みことば、すべての病を癒す薬

過去にヒンズー教の祭司であった頃、木や根で患者たちの病を治療したりもしました。しかし回心した後はそれを辞めたのですが、人々は祭司を辞めても構わないが、治療を辞めた理由は何かと尋ねました。「もちろん木や根などにも患者を癒す成分は含まれているけれども、それらを創造された神はさらに偉大だからです」と答えました。今では神のみことばという薬で人々を治療し神に栄光をお捧げしています。ただみことばだけを通してペテロと弟子たちが生まれつき足のなえた人を癒した使徒の働きのみことばのようにです。神のみことばを信じなければなりません。その中にすべての病を癒すことのできる薬があるのです。



# 神様の友達

(第一サムエル3:15-21)

ユ・ジンソ牧師



神の御声を聞くことを愛し聖地巡礼が好きだった私は、ある旅程の中で「聖書の中でとても意味のある場所がシロですが、そこに行く人は誰もいません」という言葉を聞くや否や、思い切ってそこを訪れることにしました。行っても何もないと引き留める現地人の言葉通りシロは積み重なった岩以外に何もない荒廃した場所でした。することがないので、各自がそれぞれ岩の上に登り祈っていたとき、明らかに神の御声が聞こえました。「ここがどこか分かるか？シロだ。」

なぜ神の栄光が去って行ったのか

聖書は正確にそれについて教えています。「そのころ、主のことばはまれにしかなく、幻も示されなかった」（第一サムエル3:1）神の働きを行う身分を利用して食欲と性欲、個人の欲を満たし、神を軽んじたホフニとピネハスの罪のせいで神はその地から神の御声を取り去ってしまいました。霊的な墮落によって神の御声がそこから消えてしまったのです。

しかし神の御声は決して絶えることはありません

罪は決して神の愛より大きくなく、罪が神の愛を絶やすことはできないからです。神の愛が最もよく現れるのが十字架です。十字架は罪に打ち勝った最後の勝利です。神の愛が罪に打ち勝ったため神の御声は決して絶えることはありません。

礼拝者を求められる神…“父”であるため

「父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです」（ヨハネ4:23）

全能なる神は満ち溢れたお方であるにもかかわらず礼拝者を求めると言われます。あり得ない表現ですが、それについてイエス様が教えてくださいます。「父は」という表現によってすべてを説明されました。全能者は何かを求める必要はありません。しかし、父であるため、父であるが故に求めるのです。罪と墮落によって関係を断ってしまいたい状況にもかかわらず、子どもとの関係を断つことはできないので神は御声を諦めることができず、その御声を聞く人を求められるのです。

神は何を語られたのでしょうか？

神が御声を聞く人を求める状況を聖書において詳しく見てみると、それは本当に申し訳なく、恥ずかしく、気の毒にまで思えます。サムエルは決してそのような御声を聞けるような状態ではありませんでした。「サムエルはまだ、主を知らず、主のことばもまだ、彼に示されていなかった」（第一サムエル3:7）。

いぶかしい点もあります。神がそれほど求められたのに、サムエルに語られる内容を見ると、差し迫った事案でも、重要な召しでも、慰めやアドバイスでもない、ただエリへの審判に関することだけでした。まだ何の準備もできていない寝ている幼いサムエルを起こし語られた内容は神の気にくわない思いだけだったのです。聖書はなぜこのような出来事を示しているのでしょうか？

神の友達になる

「主は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた」（出エジプト33:11）

神は神が心を痛めておられることを分かち合える人を求めています。思いを分かち合える人々、状況に振り回されない人々、祈りが答えられても答えられなくても神の味方である人々、ただ神が好きの人々を求められます。神の友人を求めておられるのです。

ダニエル祈禱会に参加しておられる信徒の皆さんは、神が御声と御心を聞かせてあげたいと思われている神の友達です。皆さんを求められる神の召しに「わたしはここにおります」と答えてください。私たちは皆この国の民族の回復のために召しを受けた者です。神と共に働く者であり、神の友達になられることを願います。神の心を抱いたとりなしの者としてこの祈りの場に立たれることを願います。

要約：グレイスジャーナル ジョ・ヨンヒ記者

# 聖霊が臨むなら私たちは変わります

(使徒の働き 1:8)

エステル・クオン宣教師



私がメキシコのために祈るように召しを受けてから11年が経ちます。私の弱さを現わすことは恥ずかしいことですが、神は私自身ではなく、サタンに属していた人生に聖霊が臨まれ変えられたことについて証し、それを誇るように言われます。

## 地獄で響き渡る福音

私は三人の兄がいる末娘ですが、暴君のような父の暴力と死の脅威によって苦しみに耐えて生きなければなりません。父、最も愛していた二番目の兄、一番年上の兄の相次ぐ自殺によって7年で家族三人を失いました。神に敵対し、神を呪い、自殺を試みたのですが、死の直前に地獄に連れて行かれ、自殺した兄がひどく苦しみを受けている姿を目にしました。「この世で救いを得られる名はイエス・キリストの他にない。イエスを信じれば天国に、信じなければ地獄に。それは公義と正義の裁判である！」地獄という凄惨な場所で、この地でよりも強烈な福音を聞き、神に「一度だけ生かしてくださいれば、神のしもべになります」と血を吐くばかりに切に祈ることしかできませんでした。

## 地獄に響き渡る母の祈り

その時、一番年上の兄を失った後、イエス様を信じた母の祈りが地獄に響き渡りました。「神様、大切な息子が二人も死にました。残った二人の子どもは私が育てることはできません。神にお捧げしますので、主のみこころのままに用いてください。」祈りを聞かれたイエス様が私の横に現れました。「愛する娘よ、恐れるな、あなたはなぜ人生を諦めようとするのか。諦めてはいけない。わたしがあなたを助けよう。」母の祈り、誰かのためのとりなしの祈りは地獄に落ちる瞬間に魂を生かす力があります。子供をつかまえて愚痴を言うのではなく、子どものために泣いてください。死ぬ運命にあるものも、主イエスの御名が入って来ると死からいのちの法に変わります。死ななければならない家庭が生きているのです。私と兄が牧師になったことはその証です。

## 聖霊が臨むと変わります

今日のみことばは、力を得て地の果てまでも証人となる前に神のわざを見せようと地獄で与えてくださったみことばです。聖霊が臨むと4段階の変化が起きます。

1. 身分：地獄に行くサタンの子、本質上は怒りの子からイエス様を信じることで生きておられる神の子になります。イエス様を受け入れ、聖霊なる神の御手をつかんだこの地に生きる誠実な子は神と共に永遠に生きるのです。
2. 信仰：世の中の価値観の中で生きていたとき、信仰であると錯覚していた知識が神に出会い変えられ、信仰を持つようになるのです。パリサイ人のように判断していた人がイエス様の十字架を思い、感激し喜ぶようになるのです。信仰は賜物であり贈り物です（第一コリント12:9）。子は赤ん坊のような信仰からイエス・キリストの成熟した信仰へと育っていく義務があるのです。からし種ほどの信仰があれば、聖霊が水と栄養を与え、私たちの信仰と人生を変えてくださいます。
3. 信仰と人生：主をキリストであると告白すると、パウロのように批判していた人からイエス様を伝える伝道師に変えられます。言葉、行動、心、人生、それらすべてが変換し、神の手をつかんだ人生へと完全に換えられ用いられるのです。
4. 生きる目的：最も多い富と栄光を享受したソロモンさえも神をなくしては人生は虚しいものであると告白しました。生きる目的をこの世に持つはなりません。人生の目的はただイエス・キリストであると告白する時、最も喜ばれるのです。聖霊が臨むとき、人生の目的が変わり、神の召しに適合した人生を生きることが出来ます。

## 変化はただ聖霊のみによって

この4段階の変化を私たちが起こそうとすることは高慢なことです。ただ聖霊が臨むとき変化が起きるのです。私の生きる目的は主を賛美し魂を救うことです。聖霊はイエス様の霊としてイエス様を証しする霊であります。聖霊で満ち溢れるとイエス様を証しせずに生きることができません。本日のみことばをお聞きになったのであれば、人生にそれを適用して下さることを願います。聖霊が臨むとサタンの子ではなく、神の子なのです。信仰の大きさをイエス・キリストまで成長させる義務が与えられました。みことばを聞いたならば、みことばに従って生きてください。人生をデザインされた神のうちにあって、天国に行くその日に「ステパノのように眠りについた」と言う祝福を享受されることを願います。

要約：グレイスジャーナル ジョン・キョンスク記者

# 最高の祝福

(出エジプト記20:1-3)

イ・ジウン牧師



私の顔の前に何も置いてはならない

イスラエルは誰も受け取ることのできない神の祝福を受けた民です。神はその民に望んでいることがありました。その答えは聖書の中にあります。イスラエルが430年間エジプトで奴隷生活を送っていましたが、神の恵みによってエジプトから脱出しました。脱出後、神は彼らをシナイの荒野に呼ばれ、直接、十戒をお与えになりました。十戒を見てみると、神が何を望まれているのかを知ることができます。十戒の一番最初に神が望まれることが含まれています。「あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない」(出エジプト20:3)です。ヘブライ語で直訳すると「あなたは、わたしの顔の前にほかの神を置いてはならない」という意味です。単純に偶像崇拝をしてはならないという意味ではありません。「わたしの顔の前にあなただけを置きなさい。わたしとあなたの間にも何も置いてはならない」と命令されたのです。神がイスラエルの民をエジプトから脱出させた目的は「彼らのただ中に住むために」(出エジプト29:46)そして共にいるためなのです。神が私たちが罪から救われた目的もそれと同じです。神は私たちと共におられたいがために私たちを救ってくださったのです。

わたし(神)はあなたを本当に愛している

私の母は体が不自由な70代の高齢者です。しかし私に1分でも会おうとバスを1時間も乗って空港に来ては再び家に帰ります。なぜこのような辛いことをするのでしょうか？私を本当に愛しているからです。このような母の姿を通して「わたしとあなたの間にも何も置いてはならない」と言われる神の心を見ることができます。

わたし(神)はあなたとの初恋を忘れない

神はエレミヤに「さあ、行ってエルサレムの人々に宣言せよ。『主はこう言われる。わたしは、あなたの若いころの真実の愛、婚約時代の愛、種も蒔かれていなかった地、荒野でのわたしへの従順を覚えている』(エレミヤ2:2)と言われました。神は40年の荒野の時間をイスラエルとの青年時代の恋、新婚時代の愛として記憶しているのです。荒野の時間はイスラエルが不平不満を言いながらも神のみことばに従い、神に完全なる信頼を置いていた時間だったからです。しかし、ここでの悲劇は神がイスラエルの民との愛について語られるとき、それが過去形であるという事実です。

私も神との初恋を忘れない

皆さんも神と分かち合っていた新婚の愛を覚えておられますか？私は大学生の時、みことばがとても良いので、夜中に図書館で涙を流しながら聖書を読んでいた瞬間を覚えています。私たち各自に「イエス様」という単語だけでも胸がいっぱいになっていた時代があることでしょう。しかし私たちは神の恵みに慣れてしまい、その初恋を忘れて行っています。私たちが神に「私が捧げたお金や献身した時間がどれほどか分かっていますか！」と言うかもしれないと思うと恐ろしくなります。神がイスラエルの民に語ったように「以前のあなたとの愛を忘れない」と過去形で私たちに語られるかと思うと恐ろしくなります。

私たちは神の恵みに慣れてしまい、ずうずうしくなることを注意して避けなければなりません。神の愛を忘れず、初恋を回復させなければなりません。私たちは皆「わたしも神との初恋を覚えています。その愛が冷めることなく時間が過ぎるごとに、さらにその愛が豊かになるようにしてください」と告白できることを願います。

要約：グレイスジャーナル パク・スルギ記者

# 世界で一番美しいプロポーズ

(第一ヨハネ4:7-8)

シヨーン執事



祝福してください

長女が生まれてから私は毎日その子を祝福しました。その弟が生まれてから、長女が弟に手を差し出し祝福をするのです。毎日長女を祝福するので、長女も弟を祝福するのです。そのように祝福は全ての人にとって良いものですが、私たちは「愛しています。祝福します」という言葉をあまり口にしません。親の最優先事項は子どもの幸せです。親が毎日子供を祝福し、子どもたちが自分が受けた愛と祝福を伝えることで、OECD国家の中で自殺率が一位の韓国を変えることができるならば、どれだけ良いことでしょうか？

おもちゃに気を取られるのではなく神を求めてください

ある百貨店のオーナーが孤児院の子どもたちを百貨店に招待し欲しいものを選ぶように言いました。必死に選ぶ子どもたちとは違い、黙って立っている子どもに何が欲しいか尋ねると、百貨店のオーナーにしがみついたではありませんか。オーナーはその子どもを養子とし、後にその子どもは百貨店を相続したのです。それは私たちの話です。神は何でも求めるように言われましたが、神だけで十分であると言ってこの世を与えてくださいました。そして、今でもその告白を切に待っておられます。

1万ウォンの喜び、1万ウォンの奇蹟

結婚式の翌日、妻に私たちが感じた幸せを隣人と分かち合おうと、毎日1万ウォンずつ積み付けようとして提案しました。1年後の結婚記念日に365万ウォンを寄付し、それは当時1500人のホームレスが2回の食事をとることができるだけの金額でした。妻はお金を集めて小さな幸せを与え、さらに大きな幸せを受けたと言いました。そのようにして4年間で寄付した1461万ウォンを結婚式の翌日に一度に寄付しようと言ったならば、妻が同意したでしょうか？1461万ウォンは誰にとっても大金です。一日1万ウォンだから喜んで始められたのです。

1004人のお父さん

現在 (present) は贈り物 (present) です。私たちは誰かへの贈り物にならなければなりません。私たちが支援するフィリピン人の少女を妻が訪問しました。貧しい環境の中でも夢と希望を持つ子どもたちに会った妻は家の購入を諦め100人の子どもたちに夢を与えることを決めました。2009年、ホルト児童福祉会で100人の子どもたちを支援し、私は202人の父親になりました。2011年、ハイチ大地震の発生後、100人の手を取り303人の父親になり、神が北朝鮮との統一に対する望みを与えてくださり、500人の子どもたちを助けることを始め、804人の父親になりました。2015年にはジヌ・シヨーンの単独コンサート当日、3年前に見た映像 (ウガンダの貧しい村を訪れた俳優チャ・インピョ氏がある一人の子どもを支援することを決断した話) を思い出しました。そしてコンパッションに連絡をして904人の父親になり、今年開催したバザーの収益金によって100人の子どもたちを支援し、私は合計1004人の父親になりました。

神の子どもらしく

(映像：ウンチョンは余命わずかだと診断を受けました。病院費のせいで父親は良い職場を失い、母親は献身的に介護をしましたが、その息子は右側の脳までも切除することになりました。父親は息子に温かい社会を体験させてあげるために、息子を連れて1500キロ国道縦断の旅を決断しました。運動ひとつしたことのない父親は血のにじむような努力をして、ウンチョンは父親と共に水の上を渡り、道路の上を走ったのです。息子が幸せに生きる世の中を作ってあげたい父親は多くのマラソンを完走しました。) 神はマラソン人生をウンチョンの父親のように共に走ってくださいます。ブルメ財団が子どもリハビリ病院を始めようとしたところ、ウンチョンに何かをしてあげようという多くの人の思いが「1万ウォンの奇蹟」キャンペーンとなり、2016年には国内最初の子どもリハビリ病院が開院しました。周りを見渡してください。私たちは十字架の愛を受けた代わりに、分かち合いながら生きなければならないのです。

世界で一番美しいプロポーズ

結婚後、妻に最も幸せだった瞬間を尋ねると、妻は「あなたを通して神様に会ったこと」だと答えました。神は世界で一番美しいプロポーズをするために私たちを今、ここにさせてくださっています。イエス様が私たちに平安を与える場所が天の御国だという信仰を持ってください。そして、その幸福を人生を通して子どもたちに見せてください。家庭が正しく築かれれば、この世の多くの問題が解決します。イエス様の手をぎゅっと握りしめ、もう一方の手は隣人にその愛を伝えるために用いられるよう祝福します。

要約：グレイスジャーナル ホン・セミン記者

# 苦難の中で私が出会った神

(詩篇119:71)

パク・ハンナ牧師



お会いできてうれしいです

朝、目を覚ますと、飢え殴られ命を落とした死体を毎日見なければならなかった収容所の生活…ある賛美を歌いながら耐えました。いつか韓国の教会に行くときには牧師と信徒たちの前で神を賛美したいと祈った時、字幕で歌詞がはっきりと示された曲です。この世で最も取るに足りなく弱いしもべをこの場に立たせてくださり、賛美ができるようにして下さった神に感謝を捧げます。

夫を通して始まった福音

殉教者キム・イクドゥ牧師の孫である夫は中国で同じ教会の執事の密告によって北朝鮮の国家安全保衛部に連行されてしまいました。面会に行った息子の手のひらに「イエス様に祈りなさい。神が道を開いてくださる」と書き、息子は「お父さんがイエス様を信じるように言った。お父さんは正直な人だから、お父さんの言う通りにイエス様を信じよう」と言いました。その日から私たちの家庭は心の願いをイエス様に正直に語り、驚くことにそれにすぐに答えてくださる神を毎日体験しました。娘が家に最後に残っているものを売って食べ物を手に入れようとしたところ、詐欺に遭い戦々恐々と暮らす中、結局は飢え死にしていしまいました。死にかけていた娘から「私が死ねば、お母さんは必ず自由がある韓国に行って」と言われました。

娘の遺言、夫の殉教によって脱北を試みる

夫は韓国人の牧師と一緒にいたという理由で「南朝鮮国家安全企画部のスパイ」という罪で6ヶ月間むごい拷問を受け、結局は殉教してしまいました。一緒に収容所にいた人々を通して、夫は収容所で自分が犠牲になっても食べ物を他の人々に分け与え、福音を伝え地下教会を立てていたという事実を聞き、夫が歩んだ道を私が必ず歩こうと決心しました。1998年8月、豆満江を渡って脱北を試みました。数多くの人が流されて死にましたが、私は「神よ、私を生かしてください。生かしてくださいならば、夫ができなかった働きを私がします」と切に祈りました。奇蹟的に川を越えることができ、夫が教えてくれた教会を訪ねた後はロシアと中国の国境地帯で働きを行うようになりました。

わたしがあなたの病を癒そう

共に働いていた青年が稲刈りをしている途中で手を怪我し、敗血症で亡くなった時に、その腕をつかまえて泣きながら祈りました。早朝に青年が起きて「天使を見た。天使が私の病を癒してあげようと言った」と言うので、その腕を見るときれいに治っていました。奇蹟を体験したその青年は普段教会に通っている人々を非難し馬鹿にしていたことを悔い改め、これからは神のみことばに従って生きることを約束しました。

主ともに歩めば 必ずしも主の国

中国の公安局のせいで教会に通うことができず「神様、私も教会に行きたいです。好きなだけ声をだして賛美したいです」と言って泣きながら祈っていたある主日の早朝、電気も付いていない部屋の片隅に明るい光が見え'495'という数字が現れました。賛美歌を探すと「めぐみに満たされ…主ともに歩めば、必ずしも主の国」という歌詞でした。イエス様だけを私の心に抱き生きるならば、そこはまさしく天国であると悟り、その日以降ひとりでも喜んで礼拝を捧げることができるようになりました。

水が韓茶に変わる

聖書の話で本当に信じられないことが水がぶどう酒に変わる出来事です。仏教信者である韓国人の家で働いていたことがあるのですが、クリスチャンという理由で軽蔑され、そんざいに扱われていました。ある日、祭祀を行う日に使おうと用意していた韓茶をうっかりこぼしてしまい、怯えて震えていたのですが、「結婚式の奇蹟を私にも起こしてください」と祈りました。与えられた御声に従い、残った韓茶を移し替え、水で満たしたのですが、その家の長男が去年のお茶よりも美味しいと言ったのです。その時、聖書には作り話はひとつもなく、すべてが真実であると悟ったのです。

必ずわたしがあなたを用いる、大韓民国の牧会者としてくださった神

ひどい拷問を恐れ「私が気を失っても主を否定することがないようにしてください」と祈っていた時、「十字架の拷問を黙想しなさい」という御声が聞こえ、イエス様がこの地に来られ十字架で死ぬまでの過程が映画のように映し出されました。拷問のさなかでも声ひとつ上げず、壁だけを見つめている私は狂っていると叫ばれ、拷問は中断され、私は部屋に閉じ込められました。その時大きな声が聞こえました。「私が今日、水の上を歩こう。」

ひどい栄養失調のせいで目と耳が悪く、ひとつも力がない状態だったので、医者からは三日以内に死ぬと言われました。しかし「必ずわたしがあなたを祝福しよう。必ずわたしがあなたを用いよう」という御声が聞こえ、あり得ないような助け手が与えられ、健康な体を取り戻したのです。「私がこの地の光と塩になりたいです。何をしたらよいでしょうか？」と祈る時、主は「分かち合い、犠牲になりなさい」と言われました。それ以降3年間を毎日毎食ごとに紙コップに入ったご飯の配給の半分または三分の一を分け与えました。死にかけていた全ての人々が、その小さなご飯のかたまりを見た瞬間、目を大きく開き生き返る様子を目にしました。それは大きな喜びであり、その3年間はまったくひもじい思いをすることがありませんでした。出獄してからは乳がんを患った姉妹を祈りで癒し、それによって家族とその周りの人々に福音が伝わったこと、早朝ごとに山の頂で紅海を割った奇蹟を与えてくださいと祈る時、約束の証しとして白い虹を見せてくださったことなど、奇蹟が続けて起こり、結局は死線を越えて紅海が割れる奇蹟を見せてくださり、私を大韓民国へと導いてくださいました。信仰の自由を与えてくださった神に常に感謝する心で賛美を捧げ、福音を伝えています。北朝鮮の地にも人権と信仰の自由が与えられるよう切に祈っています。

要約：グレイスジャーナル ジョ・ヨンヒ記者

# 七転び八起き ひざまずき祈る

(詩篇73:28)

チェ・ボクキ代表



## 主に会おう

20以上の親戚の家が集まって住む村の本家の13人の子どもの10番目として生まれました。儒教、仏教、土俗宗教が混在する家庭で私は20才になるまで主を知りませんでした。クリスチ안의家庭で育った初恋の相手と大学4年生の最後に結婚をしてから貧しい生活が始まりました。「二度と愛を探し求めるなんてことはしない。お金持ちにさせてくださるのなら、一生を人に分かち合いながら生きて行きます」と熱心に教会に通い、お金持ちになるために祈りました。主は私に会ってくださり聖霊による洗礼を受けました。早朝ごとに「主よ、私を用いてください」と祈りましたが、主は「そうではなく一粒の麦になりなさい」と言われました。

## 人生の墓場のような時間を経験する

夫の事業が大失敗しました。「立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。高ぶりは破滅に先立ち、心の高慢は倒れに先立つ」…みことばを忘れていました。IMFが起こり、その後何ヶ月かの間に貧乏になってしまったのです。貧しいだけではなく、債務滞納者、債務不履行者になり、一日の糧を心配しなければなりません。私は不眠症、鬱病、自殺衝動などが原因で精神病棟に入れられてしまいました。恐ろしかったです。「父なる神よ、私がなぜここにいるのでしょうか？」病室の小さな窓に顔を挟んで毎晩祈りました。その時間を耐えられるよう助けてくれたのが主の祈りと使徒信条でした。

## 聖書的な飲食業の哲学を学ぶ

“ボンチュク\*”はホットクのお店として始まりました。その時期は“苦難の学校”でした。多くを神が密接に教えてくださいました。生死の主権者、万物の主人は神であることを学びました。毎日、新札のようにばりっとした札を区別し、正確な十分の一献金を通した召使い訓練を受けました。また、聖書的な価値として飲食業の哲学を教えてくださいました。「多く与えても、つぶれることはない！」(ルカ6:38)

## 神のみ顔を求め親密感を高める

夫と共に外食コンサルタント会社に就職しました。相変わらず精神科の薬を飲んでいた私はまともに働くことができず、常に叱られ、私の姿は浅黒くシミの多い顔に脱毛がひどく、体重は90キロを超えた状態でした。このように生きていて何ができるか…そして最後にたどり着いたのは教会でした。「父なる神よ、私が見えますか？私にあなたの娘であると言ってください。」声が枯れるくらい叫び祈りました。誰かが置いて行ったトラクトには「神は愛です。神はあなたを愛しておられます」と書いてありました。“いのちの電話”を通して聞こえて来た10分間の説教は私にとっていのちの水となり心に注がれました。神のみ顔と存在を探し求める時、神は喜ばれます。人生のどん底を経験し、ちりのような自分を否定していた当時が私の人生において最も神と親密な時期でした。

## みことばによる癒しを知る

「わたしは必ずあなたがたに、わたしの耳に告げたそのとおりをしよう」(民数記14:28)。イスラエルの民の不平不満に対するみことばが私に語られるみことばのように聞こえました。悪口ばかりを言う母、不平で溢れていた家庭環境によって私は言葉遣いがひどく、ひねくれた言葉を多く使用していました。「私の言葉の結果が今の姿になったのだ」と知った時、とても怖かったです。祈祷文を書き始めました。「私を治してください。もう一度だけ機会を与えてください。」みことばを読んで、書き、暗記することを繰り返しました。私は必死でした。その過程で病が癒されました。私が聖書を読んでいる間、聖書も私を読んでいたことをみことば(ヘブル4:12)によって悟りました。必要に応じてだけの祈りを捧げていた私の姿を捨て、みことばを握りしめ、神の約束を握りしめ祈りました。神はその祈りに答えてくださり、みことばで教えてくださいました。人の少ない建物の2階で“ボンチュク”を始めました。「私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」とみことばを唱えながら毎晩お粥作りの練習をしました。弱さが強さなのです。神が働かれるからです。また、苦難は力です。今、苦難の中におられますか？それを悲観しないでください。神が近くにおられる時期であり、最も主と親密な時期です。人生における良い出来事、辛い出来事、すべてを働かせ益としてくださるのです。神の国の拡張、いのちを与える働きが今なされているのです。\*ボンチュク：韓国で全国展開しているお粥の専門店

要約：グレイスジャーナル キム・チュンソン記者

# 悔い改め

(イザヤ59:2)

ブライアン・パク牧師



良き神は私たちに良いものだけを与えたいと思っておられます。また、神の子である私たちが神の贈り物を受け喜ぶことを嬉しく思われます。20年間、世界を渡りながら多くの方々のために働きを行って来ました。そのなかで常にある祈りの課題の種類が三つあります。個人・家庭・物質に関する祈りのリクエストです。祈りを多く頼まれるなかで、ある気になることがありました。「韓国のクリスチャンは世界でよく知られるほど、たくさん祈っているのに、なぜその全ての祈りの答えを受けることができないのか」ということです。今日はダニエル祈禱会の14日目です。なぜ神はこのみことばを私たちに語られるのか見て行きましょう。

## 悔い改め、回復の奇蹟

神は私たちに良いものを与えようとされますが、その祈りを聞いてくださらないことが多いのです。神と私たちの間を隔てる罪のせいです。罪によって神は私たちから顔を背けられ、叫ぶ声を聞いてくださいません。どうすれば関係が回復し、祈りを聞いてくださるでしょうか？それはまさしく「悔い改め」です。それよりもさらに驚くべき贈り物は「許し」です。悔い改めを通して神のもとに出て行くと、恵みを受けられる機会があるのです。しかし、人々は「悔い改め」という言葉について考える時、罪と関連しているため重く負担に感じます。今日から「悔い改め」は「許し」であると考えてください。使徒の働き26章20節には「悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするように」と書かれています。しかし多くの場合、私たちは悔い改めをするとは言っても大抵は後悔をしています。悔い改めと後悔の違いは「繰り返し」です。何かの行動をして良心の呵責を覚え反省文を書きますが、すぐに同じことを繰り返すのが後悔です。後悔は何回しても神の赦しを受けることはできません。そうであれば、具体的に私たちは神にどのように祈るべきでしょうか？まず、聖霊様は私たちに来られ、罪に対して叱責され良心の呵責を与えます。私たちは誰も知らないと思っていた罪が現わされると悩み始めます。しかし、その姿をそのまま神に告白してください。神は私たちのすべてを知っておられ、それを認めることを望んでおられます。次に、悔い改めて神のもとに立ち返り、心・考え・行動・方向性までを変え、それにふさわしい生き方をすることを望んでおられます。前を塞いでいた壁が崩れるのです。そうすれば神が毎日皆さんに会ってくださり、回復の奇蹟を起こしてくださいます。

## ただイエス様だけによって夢をかなえる

良き神を知らなかった若い時代の夢はお金持ちになることでした。中学3年の時にアメリカに移住し、到着してすぐからアルバイトを始め貯蓄をしました。一生懸命に勉強もして、名門大学に進学しました。80年代前半、大学を卒業した後、ある雑誌でニューヨークのウォール街に関する記事を目にしました。当時、そこで働く人々は300~400憶ウォンを稼ぐという記事に大変驚きました。その後、すぐにロースクールを退学し、大きなウォール街の証券会社に就職し一生懸命に働きました。そこで副社長になり、想像できないほどのお金を稼ぐと同時に、内面においては虚無感が生じたのです。それを埋めるために、酒、たばこ、麻薬に手を出し始めました。しかし、何の助けにもならず、鬱病にかかり自殺を試みるようになりました。すでに体は病気でボロボロの状態でした。そうしたある日、運転をしていたところある男性がやって来ました。そして誰も治すことができなかったこの空虚感と体の痛みを治すために助けてあげると言うのです。それはイエス様でした。その日から私は神の子どもとなったのです。どの病院でも治すことができなかった腰の狭窄症、踵（かかと）の癌、呼吸困難、皮膚病、円形脱毛症など、すべての体の病を神が癒してくださいました。そのようにして神は私に毎日会ってくださいました。過去とは違い、今では目的が変わりました。「ただイエス様だけ」に変わったのです。そのように人口77億人の中で夢をかなえた人になりました。本当の幸せと喜びを享受するならば、人生を夢のように生きることができるのです。

要約：グレイスジャーナル ジョン・アーム記者

# 子どもたちを怒らせるな

(エペソ6:4、第一テサロニケ5:16-18)

イ・ユナム勸士



## 子どもが私の自慢の種…成果主義の母親時代

親が持つ最大の愚かさは子どもを自慢の種に作り上げることであり、私はその愚かな親でした。子どもたちを自慢の種にしようと良い成績や賞を取ることで、生徒会役員になることなどの客観的に見えるものを要求し、朝晩構わず子どもたちを急かし愚痴を言っていました。私の息子は全科目においてオールAの生徒会長、いわゆる優等生でした。人々は私の子どもたちを口をそろえて賞賛し、うらやましがりました。そして私は子どもたちを立派に育てていると思っていました。しかし、私の子育てには有効期限があったのです。

## 素直な子どもたちの反抗、「お母さん、言いたいことがあるんだけど」

4月のある日、高校3年生の息子が話したいことがあると言うので、私は普段通りに「忙しいから早く話しなさい」と答えました。息子は突然、なぜ学校に通わなくてはならないのかと言いました。とても疲れて辛いのでしばらく休みたいと言うのです。「頭おかしいんじゃないの?」と腹を立て反対しましたが、なすすべはありませんでした。息子は遅刻と早退を繰り返した結果、退学届けを出し、それに続いて娘まで退学届けを出してしまいました。うまくいっていた教師である親が突然、退学生の親になってしまったのです。子どもの幸せ、私たち家族の未来と幸せがすべて終わってしまったと思いました。

## 人生を初めて振り返った日

家にいながら食べては寝て、ゲームだけをしている息子と絶え間なく衝突しました。弱り目にたたりめで、夫の事業までが失敗してしまった家庭は完全に崩壊してしまいました。時が過ぎれば過ぎるほど、乱暴になっていく子どもたちを見ながら、「子どもたちがこのまま死んでしまったらどうしよう」とまで考えました。前だけを見て生きて来た私が、その時になって初めて人生を振り返るようになったのです。その時に聞こえて来た主の御声、「あなたの姿を見なさい」。私は子どもの両親というよりも、監視者に近かったのです。心から褒めてあげたこともありませんし、子どもたちと目を合わせて、共感する会話をしたこともありませんでした。ただ叱って、急ぎ立てることで、敵対する会話しかできない親だったのです。

## 私の願いと神の願い

私は私の思う通りに子どもたちを育てようとして失敗してしまいました。子どもの欲することに少しも気を留めることなく、愛していると言う名目で、子どもたちを息をつく暇がないほどに激しく責め立てていました。その結果がゲーム中毒でした。心身共に辛く、涙を流しながら祈るとき、多くの人々が「大きく用いられるために、このようなことが起きているのよ」と言い慰めてくれました。「私は平凡な生き方がしたい!」と叫びましたが、主が望まれるときに、主が自ら用いられるのが神のみこころなのです。偶然に私の私情を聞いたある出版社から本の執筆を依頼され、学校の講義の内容を録音したものを整理して書くのはどうかと提案されました。私の娘が快くそれを承諾し、息子は推薦文まで書いてくれました。私と私の家族の恥であった過去が主の必要に従って用いられ、多くの人々を考えさせるために私たちが用いられたのでした。

## 子どものために悔い改め、与えられたものに感謝

遅くに私の足りなさを悟ったので、子どもたちには本当に申し訳なく思いました。幼かった時、こどもの日に聞いた「子どもをおこらせてはいけません」というみことばが胸にひしひしと伝わりました。子供に対する怒りと憎悪が申し訳なさや愛に変化し、子どもたちも部屋から出るようになり変化し始めました。過去には一度も感謝したことがありませんでしたが、今では与えられたものに感謝しながら主を賛美し生きています。子育ての基本は「すべてを下ろすこと」であり、最高の子育て法は「信じて待つこと」であると学びました。子どもは神から与えられた贈り物ではなく、尊いお客様なのです。贈り物であれば、受け取った後は自分の好きなようにしますが、お客様はもてなしてあげなければなりませんね?尊いお客様として神から与えられた子どもたちを神を喜ばす尊い子どもとして育て、そのまま主にお返しする親になれるよう祝福します。

要約：グレイスジャーナル ユ・ミンヒ記者



# 私に会ってくださった主

(第二テモテ4:18)

パク・テグ勸士



## 闇の子

私はこの場に立つ資格もない者ですが、主の恵みによって立つことができました。1997年から韓国国内と全世界を旅しながら多くの人々に神を伝えています。その理由はパク・テグに会ってくださった主を他の人々にも伝えよという地上命令を受けたからです。主を知っているだけに留まらず、熱い心で主と出会ってください。私は12才の頃から壊れ始め犯罪者となり、悪を悪とは知らずに生きていました。結局、私は家出した後、大きな事件を起こし拘束されてしまいました。その後ある日、希望が訪れて来たような気がして国家のために活動を始めたのですが、結局はアルコール中毒と精神病を患ってしまったのです。

## 母の祈りと変化の始まり

母が神に涙を流しながら絶え間なく祈り続けていましたが、神は私を鞭打つように再び牢屋に送られたのです。面会に来た母親に自分を諦めるように言いましたが、母はこう言いました。「神はおまえを愛しておられる。」神はいないと言い続ける私に母は再び「神はおまえを愛しておられる」と言ったのです。これが私と母との最後でした。後に母の墓を訪れ、母が望んでいた人生を生きると約束して帰って来ました。

## 妻との出会いと神との出会い

ある日、先輩の会社で妻に出会いました。妻にすごい勢いで差し迫りすべてのことを話し、結果として一緒に住むことにしました。妻の結婚の条件はソウルから出ることと、酒をやめることでした。その後、私は酒をやめました。妻の祈りは夫を変えます。結婚生活は幸せそうに見えましたが、意思疎通がうまく行っていませんでした。妻は自殺を試みた後、教会に行かせてくれるように言いました。私は教会の人たちが嫌だったため、ある条件の下、妻を教会に送りました。ある日、妻からプライドを傷つけられるような言葉を言われたので、すぐに妻が通っている教会に行きました。牧師に会って問い詰めたのですが、そこで牧師に捕らえられたのです。とりあえず教会で小さな奉仕から始めたのですが、みことばから恵みを受け始めました。神の御声も聞き、修練会において色々なことが解決し、不妊だった妻が妊娠しました。妻は神から与えられた命に感謝し、期間を決めて特別献金をしようと言うので、私は必死にローンをしてでも献金を捧げました。

## 献身と祝福

教会の財政難によって牧師先生が苦しんでおられる姿を見て、神に教会の借金を返すことができるようにと必死に祈りました。その1ヶ月後に交通事故に遭ったのですが、補償金を受け取ることができず、手術も受けることができませんでした。しかし、神が癒してくださり退院することができました。その後、辛うじて補償金を受け取ることができ、献金をすることができました。これは不幸中の幸いでした。私も苦しい状況でしたが、牧師先生のために食べる物も惜しんで生きていました。子どもが栄養失調の状態生まれ、すぐにでも死んでしまいそうでした。助けを求めて姉のもとに行こうとしたのですが、突然ローマ人への手紙8:6-7のみことばが思い出され、その足で教会に向かい泣け叫びながら祈りました。その日から神は悔い改めさせてくださり、子どもの健康も回復したのです。その子は現在、神学校に通っています。私は宣教献金を3万ウォンずつ捧げ始めたのですが、91年には2千万ウォンの宣教献金を捧げることができました。皆さん、神にお捧げしてください。私たちがこの世を去る時に持っていけるものは何もありません。私が神の働きを行うとき、神は私たちの問題を解決してくださいます。

## 神の御前での決断

神はすべての時間において私と共に歩んでくださり、癒してくださり、子どもも与えてくださり、貧しさから抜け出せるようにしてくださいました。私だけがこのように受けて良いのでしょうか？神は与える準備ができておられるのに、皆さんが受ける準備ができていないのです。間違えた人生を送っていた人を用いてくださいました。皆さん、主に出会ってください。自分の考えや思いを下ろし、主の御前で主を呼び求めてください。そうすれば、主は聞いてくださいます。信仰は妥協ではなく、決断です。決断して主の愛を受け取ってください。

要約：ミン・ヒョンスク

# 神の手

(イザヤ41:10)

アン・ジェウ所長



## 悪霊たちの勢力の中での成長

私はイエス様について知ることでできない家庭で育ちました。力のあるシャーマンであった祖母の姉妹の影響を受けた祖母と母によって伝えられた悪霊に縛られた環境で霊媒所を遊び場のようにして育ったのです。したがってイエス様を信じたり、信仰を持つことは不可能でした。

## 福音を聞く

高校時代に暮らし向きが悪くなり、働きながら学校に通うという辛い時期を過ごしました。高校3年生の時、脅したり嫌がらせをしても、私だけについて来てはしつこく福音を伝えるパク・ジョンイルという友人を通してイエス様を知りました。個人的に神に出会い、罪の赦しの恵みを受け、みことばを聞きました。夢と希望がなかった私が教会に通いながら幸せを発見し、神が用いるにふさわしい器へと変化し始めました。主だけを求め主だけが見える驚くような恵みの時間の中で祈っていると、神は大きな人形と笑顔の私が写っている一枚の写真を見せてくださいました。しかし、気のせいだと思った私は記憶からそれを消してしまったのです。

## 幸せの声を伝える腹話術師としての召し

ある日、ソウルの街を歩いていると、細い電柱に貼られた腹話術教室のちらしが揺れているのを見て呼ばれているように思えました。好奇心でその場所を訪れ、ドアの隙間から見たたった10秒の腹話術の様子は私の人生を変えました。腹話術を学びはじめてから10年後、神は放送、企業、大学、公演など様々な分野で用いられ、2009年には韓国最初の腹話術公演ができるようにしてくださいました。企画会社の関係者に進められ腹話術公演の広報写真を撮影したのですが、24年前に祈りの中で神が見せてくださった写真…神からのサインが明らかであったことを確信した瞬間でした。人形劇専門家、俳優、ミュージカル、作家、伝道師などの多様な職業を通して、また演出と企画、公演を通して多くの舞台に立つ機会を得たことは単純に私が好きでやっていることであると思いましたが、このすべてが腹話術として神を証しするよう神が環境を作ってください、厳しい試練を通して神が私を訓練される過程であることを知ったのです。神は私を選び召され、幸せな声を伝える腹話術師の夢とビジョンを与えてくださり、また他のビジョンを神のみこころのままに成してくださっているのです。

## 神は唯一の歴史を創られる

神は2009年から私を米国で行われる世界最高の腹話術祭に5回も招待されるようにくださり、2018年には世界で最高の舞台に立たせてくださり、誰も今までしたことのないことを韓国人の私にさせてくださいました。神は皆さんにも唯一な何かをされようとしています。足りなさや弱さに負けないでください。私は弱くとも神は強いのです。神は私たちが夢見ることのできないことをなされます。今はぼんやりとしていて神のわざとお導きがよく見えなくても、私の状況が暗く思えても、その中で共におられる神を見てください。私たちが用いたいと思われている神の心に注目し、それを認めるのです。そうすれば、はっきりと見えてくるようになります。悪霊に縛られた人生を生き、辛い環境と様々な人生経験や職業に出会ったことは偶然ではありません。神は私たちの失敗までも益として用いてくださるのです。私の人生が辛く厳しい過程にあるとしても神のみこころとお導きは明確なのです。

腹話術の人形を動かす手を外すと人形が人形でないかのように、神の手がなければ、私たちも同じです。私たちの後ろに神の手があります。神の御手は私の心をつかみ立たせてくださる全能の手なのです。どのような状況にあっても、感謝して喜んでください。神に栄光をお返しし、今私と共に共におられる神のわざを認めてください。神は驚くべき計画を成されることでしょう。

要約：グレイスジャーナル ジョン・キョンスク記者

# 神様は善いお方

(エレミヤ33:3)

ク・ギョンソン作家



## 無気力な時間の中で作った“パニー”

私は2才のときに熱病によって聴力を失い、7才になって初めて言葉を話し始めました。学校生活は辛く、高校1年生の時に退学してしまいました。ゲームにはまり、無気力な時間を送っていたところ童話作家になろうと、専門学校に登録しました。キャラクターに関する授業の途中で、ウサギが最も聴力が優れた動物であることを知り、私の代わりによく聞いてほしいという思いで“パニー”というウサギのキャラクターを作りました。

## 神との出会いの中で生まれた“夢”

私は熱心に教会に通ってはいませんが、修練会に行こうという友人の熱心な誘いを断ることができず一度ついて行きました。最初はごちなく過ごしていた祈禱時間でしたが、自分の心が悔しい思いでいっぱいになりました。友人は学校を卒業して就職し、良い暮らしをしているのに、学校を辞めてゲームばかりしている…その自分の姿を思い泣きながら祈りました。その日、神に出会い、教会に熱心に通うようになりました。仕事をせずに十分の一献金を捧げることができないので、週報に載せる絵を描いて十分の一としてお捧げしました。その後、ドイツに留学して影響力のある画家になりたいという夢を持ち始めました。

## 神から新しく与えられた“目標”

ブログを製作し、そこで人々とやりとりをしながら、サイワールド\*のテンプレート作家と親しくなり、その人を通して知ったテンプレート作家になりたく、9ヶ月間頑張りました。ある日、ひとつの手が現れ「時が来た」という文字を書く夢を見た後、作家として採用されたという電話を受けました。始めはお金をもらうことができませんでしたが、神が働かれ人気作家にしてくださいました。そして留学費用を貯めることができました。しかし宣教に行って目標が変わりました。留学をして自分だけの独特な世界を持った画家になることよりも、全ての人に親しみを持ってもらえるような作家になろうと決心したのです。

## 完全ではない人であるがゆえに伝えられる“希望”

サイワールドの人気の下降すると共に収入が減り、誰も私を必要としないので心が荒れ果ててしまいました。礼拝の途中で、神に賛美を捧げることもできないと言うと、「すべて分かっている」と、聖書の中のある場面を見せてくださいました。イエス様が来られると言う知らせを聞いても、そこに座ったままで動くことができない足の萎えた者にイエス様が来られ手を取ってくださる場面でした。その足の萎えた者が私であり、私の心は回復しました。私が苦しんでいた理由が他人と比較されることによる自尊心の低下であると悟りました。すべての人が神にとっては尊い存在であるということを知らせるために『私になりたい自分』という美術プログラムを作り、宣教活動を行いました。網膜色素変性症という診断を受けた後、フィリピン宣教に行ったのですが、そこで「完全な体ではないキョンソン姉妹が絵を描いてくれるだけでも貧困、障がい者、避難民であるこの子どもたちに大きな希望が与えられるのです」と言う言葉を聞いて神への怒りが消えてなくなりました。神は私を単純な作家ではない、希望を伝える者として用いようとされていることを知りました。

## 私を背におぶってくださっている“神様”

私は障害を克服した立派な人ではありません。パニック障害と鬱病を患ったりもしました。一度、バンコクに逃げ、毎日泣きながら過ごしていたところ、市場で物乞いをしている子どもを目にしました。誰も関心を示さないその子どもに持っていたお金をすべて与えて戻ってきたのですが、疲れ果てている様子が私自身のように見えたその子どものことが頭から離れませんでした。子どもがその場所にずっといたのでお金を受け取ったように、私も私の居場所をずっと守るならば、神が想像を超えるようなことを見せてくださるのではないかと思います。ベテスダで38年間を過ごした病人もその場所で待ち続けたので癒しを受けました(ヨハネ5:1-9)。

韓国に戻って来て「神様、助けてください」と祈り求めました。母が私を背負って行く場面を見せてくださったのですが、母の姿は少しずつ神へと変化しました。神が私を背負われ、危険から助け出し、人々を通して慰めてくださる姿が映画のシーンのように現れました。「娘よ!」と言われる神の御声を聞くことはできなくても、私を守り待ってくださったのです。神はこのように取るに足りない私を愛し、用いてくださいます。私の行く道はまだまだ遠く、整える必要がある部分も多いです。私のことを思い出されることがあれば、お祈りしてください。

\*サイワールド：韓国のSNSブログのひとつ 要約：グレイスジャーナル パク・スルギ記者

# 我が愛する者よ、立ち上がり共に歩もう

(イザヤ61：1-3)

ヘレン・キム宣教師



## 罪悪感3点セット、ハイチへの召しを受ける

2010年、国連職員であった私は大地震の被害を受けたハイチに派遣され宣教師たちと共に働いている中で牧師から勧められ洗礼を受けました。救いが何か知りたくて受けたのですが、喜びが溢れ罪から自由になりました。

私は敬虔なカトリック信者であったため自分が罪人であるということは知っていましたが、罪から抜け出すことはできませんでした。母からいつも「お前はだめだ」など否定的な言葉で育てられ、父は私が政治家になることを望んでいたため、私はいつも愛されようと努力し、仕事中毒になってしまいました。離婚と同時に養育権を失い、子どもたちに一生会えなくなったので、私は見た目と違い、人の目を大変気にし、恐れに苛まれ、少しずつ自信に欠けた人になって行きました。主が「今まで偽りの父があなたに述べた言葉はすべてが嘘である」と言われ、罪の世界に捕らわれていた私が自由になった姿を見せてくださいました。

カナダのケベックに行った時、書類の不手際で米国から入国を拒否され3週間が過ぎた後、ゲツセマネの祈りに関する説教を聞いたのですが、洗礼を受けた日に捧げた祈りを思い出しました。「主は私が国連よりもハイチで孤児とやもめのために働くことを望んでおられる。」

## 礼拝の祭壇の上に開かれる天の門

主の召しであると知り、国連を辞めハイチに行くと、宣教師でさえも喜んで受け入れてくれない孤立した状況が待っていました。その状況を通して神は私に人を頼らないようにされました。派遣者も支援者も仲介者も何の準備もない状態でひとりて厳しい地に来て働き、早朝ごとに主の御前で泣いていた私に神はヤコブのはしごを見せてくださいました。「あなたが祭壇を築き、礼拝をすれば、私が天の門を開き下りて行って人々を救おう。あなたはただ礼拝だけを捧げよ。」そして、人々を集め礼拝を捧げ始めました。飢えた人々のために主に満たしてくださいよう祈りながら、買って来た米を炊き始めたときから今までの7年間、すべてを神が満たしてくださいました。神は与えてくださるという約束のみことばを信じ宣言すると、そのようになるのです。礼拝の祭壇の上に天の門が開き、下りて来られる神の臨在が奇蹟を起こしました。

## 神から離れずに神に尋ねてください

主に会い受けた傷が恵みによって覆われても、同じようなことが起きると再びその苦い思い出がよみがえってきます。サタンは私たちが諦めるまで同じ言葉で攻撃します。私も度々喜びを失って祈りから遠ざかると、霊的に鈍くなり罪が再び入って来ました。多くの病気にかかり、失明の危機まで体験しました。別れたふたりの子どもと奇蹟的に会うことができたのですが、子どもたちが大変貧しく暮らしていることを知り私の心は崩れ落ちました。疲れ果ててしまうほど一生懸命に働いたのに、どうしてこうなるのか…神に対して怒りがこみ上げました。理解できない出来事が起きる度に、神から離れることなく、神にしがみついて戦ってください。祝福は苦痛という扮装をしてやって来るので、その期間を耐え抜ける人が祝福を得るのです。主は喜びを失った私に「マルタではなく、マリアになって、わたしと深い関係を持つ」と言われ、私は新しい神に出会いました。人を許すたびに、恵みが溢れ、癒しを得ました。私の苦い思い出を消してくださり、魂に対する憐みを溢れさせてくださいました。そのような視線で見るとき、私はひとつの魂のために祈る宣教師ではなく、ただ仕事だけをやる働き人だったことに気がきました。

最も大きな子どもの問題が解決できず、子どもたちを助ける方法がないので、神の御前で常に泣いていたのですが、「私が死にます。私をお受け取りになり、子どもたちを生かしてください」と祈った瞬間、「あ、この祈りを神様は待っておられたのだ。私を受け取ってください…！子どもたちは神様のことをまだ知らないけれども、神様の時が来ると、美しく生かしてくださるのだ！」とすべての心配が消え去り感謝と喜びが溢れ始めました。

## 直ちに従うことによって神の召しに答えてください

私の心に義と平安と喜びと感謝の天国が臨むことが救いです。私たちは皆、行く宣教師、送る宣教師、祈る宣教師として心傷ついた者たちに救いの感激を分かち合い、地の果てまで福音を伝えなければなりません。きょう主が「わが愛する者、美しいひとよ。さあ、立って、出ておいで」(雅歌2:10)と言われたら、すぐに「はい、主よ。私はここにおります」と答える皆さんであることを願います。

要約：グレイスジャーナル チェ・ヒョンス記者

# 神の栄光

(第二コリント4:3-6)

キム・ミョンソン幹事



## “栄光”とは何か

私は賛美リーダーとして成長しながら、特に“栄光”という単語がとても気になっていました。この“栄光”に関して初めて悩み始めたのは高校3年生の時でした。すべての受験生と同じ気持ちで、「私を通して神の栄光を現すことができますように」と祈りました。一生懸命に勉強をして良い結果を得れば、神の栄光を現すことができると思っていたのです。

## 一生懸命さによって現わそうとしていた“栄光”

幼い頃、家族のことを顧みない賭博依存症の父のせいで、すべての育児は母が担当していました。貧しい町内で育ちましたが、母の愛と私の明るい性格のお陰で学校でも一目置かれた学生でした。正しい道から外れても不思議ではない環境でしたが、神は教会を通して私を守って下さいました。高校3年生の時、神に私の情熱をお見せしなければならぬと信じ、信仰生活も学校生活も一生懸命に頑張りました。しかし、大学受験ですべての志望校に落ちてしまい、裏切りと羞恥心に苛まれました。「神様、私がどれだけ一生懸命に頑張ったかご存知でしょう！」これだけ一生懸命であった私が良い結果を残せなかったことは、神の栄光に傷をつけてしまったような気分でした。

## 善い父なる神の御声、「ありのままの姿が愛おしい」

3回目の挑戦でやっと大学に合格することができ、そこでイエス様との個人的な出会いを果たしました。「ありのままの姿が愛おしい」という主の御声に触られました。家では憂鬱で、学校では幸せなふりをしていた二重生活から解放されました。主の恵みにお返しするために自費のキャンパス宣教師として献身しようと決断しました。家族の反対がありましたが、主の召しであるという確信があったため、信仰によってその道を歩み始めました。イエス伝道団キャンパスワーカーシップ賛美リーダーとして仕える中、ある男性に出会い、彼との結婚によって人生の二幕が開かれたのです。夫は私が過去に一度も不幸であったことがない人かのように感じさせてくれました。それほど私を尊く思ってくれていたのです。

## あなたが信じるならば、主の栄光を見よう

家庭も賛美の働きも安定してきていたころ、夫の咳がひどくなり検査を受けることになりました。検査結果は末期がんでした。夫にしてあげられたことが何もないので、私にも機会を与えてくださいと祈ったところ、主は御声を聞かせて下さいました。「あなたが信じるならば、主の栄光を見よう」。死んだラザロを生き返らせたイエス様！病院からは夫に見込みはないと告げられましたが、「信仰とは約束されたみことばを信じることだ！」という悟りを通して私に信仰を与えて下さいました。夫は少しずつ衰えて行きましたが、神が息を一度でも吹き入れて下さるならば、すぐに立ち上がることができると思えました。

## 失敗の証しを通して現わされる栄光

夫はホスピスへと移りました。しかし、私の信仰は日々強くなって行きました。「医療の助けのない場所で奇蹟が起きるなら、どれほど大きな栄光となるだろう！」と思い、夫を諭し励ました。その姿を見ておられた伝道師先生の助言を通して私の高慢さに気付いたのです。命の主権者である神がこの地での使命をすべて果たした人を召そうとされるならば、私の状況と関係なく、ただ従わなければならないのに、私は相変わらずこの地での人生にしがみついていた。時間が過ぎ、私たちは謙虚な心で神に出会う準備を行うことができ、夫は息子の最後の音声を残して神のみもとに旅立ったのです。私は夫が奇蹟のように生き返り、「主を信じるならば死ぬことはない」と叫ぶことで神の栄光を現すことができると考えていました。しかし今日この時間、神は私たちの失敗の証しを通して神の栄光を現しておられます。

## イエス様が受けた神の栄光に従って生きよ

神の栄光はすなわちイエス・キリストです。イエス様が死んだラザロを生き返らせ受けた栄光は、イエス様を殺そうとする陰謀の中に置かれたものでした。愛する者たちのために、死の道へと向かって進む十字架の栄光でした。主が私たちに教えてくださった栄光の人生は享受し、拍手と賞賛を受ける人生ではなく、十字架が与えられても信仰によって歩む人生なのです。大きく高い目標にたどり着くことで現わすものではなく、小さく低い場所にあっても日常の中で他の誰かにキリストの光を照らす生き方によって神の栄光を現せることができるよう祝福します。

要約：グレイスジャーナル ユン・ミンヒ記者



21日間 全世界と共にする

# ダニエル祈禱会